

はじめに

2013年度より私大情報学部で「政策科学」を担当する専任教員となり、情報技術やメディア、デザインなどに関心が高い学部学生を前に、公共政策や導入科目を講義することになった。

毎年、関連する書籍やネット情報を勉強しながら、これまで1000枚を優に超えるパワーポイントスライドを作成してきた。スライドは簡便に作れて、講義で投影できて便利であるが、枚数が増えるといかにも見づらく、内容も箇条書きや図だけで不案内となってきた。そこで、これまでの講義を見直して整理して、話してきたことを書き出したり、関連する情報を補足したりして、1冊の書籍としてとりまとめることにした。

とあるIT企業の人事部長へインタビューした際、「社会への関心（文系）とIT技術（理系）の両方がないとSIer（システムインテグレーター）はできない」という話を聞いた。情報技術やメディア、デザインなどに興味がある学生にとっても、何のために情報技術を利用するのが重要であるし、伝えるコンテンツの内容やデザインをどう役立てるのが重要であり、社会問題や公共政策について学ぶことは必須であろう。

2015年、改正公職選挙法が成立し、選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられ、2016年の参議院選挙から適用された。大学や学部を問わず、あらゆる大学生が社会や政策のことを学び、自ら考えることが問われている。

多分野の若い学生が、先人たちの社会をより良くしようと考えて取り組んできたことに思いを馳せ、社会や政策を志向していくことを希望している。

同時に、社会人となって忙しく働かれてきた方が、ふと手にとって、大学の学びとは何だったのか、政策とは何かを考えるきっかけとなれば、望外の喜びである。

2019年1月

佐藤慶一